

山中湖での夏合宿を振り返って

<2010年夏合宿の記録>

総監督

大津保男

今年は珍しく梅雨明け発表とBJの夏合宿とがぴったり重なる結果となった。鮫島会長や重田総括などの事前調査で、グラウンドは水はけ良好との情報を得ており、気象庁のお墨付きにより、どうやら合宿期間中は、空模様やグラウンドの心配をしなくても良さそうで、一安心というところ。

49人（6年生10人、5年生17人、4年生11人、3年生11人）そして5年生の兄の後見役（？）で参加の2年生「こうた」を加え、かつてない規模の50人の子どもたちが、多くのご家族の見送る中、貸切バスで厚木を出発した。

途中、大した渋滞もなく、ほぼ予定どおりに宿舎に到着。今回初めて利用する「グリーンロッヂ山中湖」は、思ったより大きくしっかりした造りで、やんちゃな子どもたちの室内走りにも耐えられそうだ。

ご主人への挨拶の後、部屋割り、諸注意、チャレンジシートの提出など一連のオリエンテーションを済ませてから、グラウンドに移動して昼食をとるまでの空き時間は、みんなで湖畔の散歩に出かけることとした。

「きらら」を目指したものの、明朝の散歩で集合予定のいつもの場所までたどり着くのがやっとで、思ったより奥まった場所にある宿舎であることを実感。

ところで、近年、クラブの人数が増えて学年単位の活動が主になりつつある。そこで、学年の壁を超えたチームの一体感が大切だろうということで、子ども・指導者とも、BJの仲間としてお互いに良く理解し合うことを今回一番の目標としている。

また、子どもたちには「遊びの心」・「兵士の心」・「狩人の心」の三つの心のうち、自分に足りないものは何かをあらかじめ考えてもらった。これはW杯関連番組の某コーナーで、サッカー選手のシルエットを描いたパネルを各国サッカー界の重鎮に示し、それぞれの心がどの位の割合で重要かを塗りつぶしてもらっていたのがヒントである。

BJのみんながどのようなサッカー観を持っているのか、そして子どもたちは、

どのように自己評価しているのかが知りたかったからである。

その結果、“自分が決めるという情熱”の「狩人の心」が足りないと感じている子どもが、“純粹に楽しむ”「遊びの心」や“指示やルールに従う”「兵士の心」に比べて、それぞれ6～7倍多いことが分かり、非常に参考になった。

グラウンドまでは宿舎のバスでの送迎となる。10分ほどで到着となるが、広々として手入れの行き届いたグラウンドは、テントなどの諸設備もしっかりしていて、とても素晴らしい満足のできるものであった。

みんなで準備に取りかかり、おなかが空いた頃にやっと届いた昼食のハヤシライスもお代わり続出で、給仕担当のお母さん方も大忙し。みんなでこうして食べるのは本当に楽しいものだ。



予定どおり1時からウォーミングアップやミニゲーム、2時からテーマ別練習として、ドリブル系、パス系、シュート系、そして高瀬コーチを中心に今回初のGK系と4グループに分かれての練習である。

「ゆうま」が初日早々ながら不調を訴え、念のため病院に行くこととなったのが気がかりではあるが、ここは製造責任者のOコーチに託して、練習に集中。

初日恒例の「班別ミニ駅伝大会」のコースは、この練習の間に下見をして決めるのだが、割合奥まったグラウンドのためコース選定には事欠かない。だが、時間も限られ、学年の幅もあるため、余り長い距離は設定できない。日陰や土のコースが多く、間違えにくく、安全かつ変化に富んでいて、適当な時間で戻れるのが理想だが、初めての場所でもありなかなか難しい。今回は、木陰のコースも適当にあり、最後に心臓破りの急坂があるのが特色だろう。

この頃になると、富士山も雲の間から姿を現して、なかなかいい感じ。



人数調整で一部のコーチにも加わってもらい、各班2チームの10チームでスタート。一位10点、二位9点・・・という具合で最下位1点までの得点制、各班2チームの合計点で班の順位付けをすることになる。

結果は、一位・二位をゲットした紫ビブスの4班（松浦班長）が断トツで、以下、1班（原田（大）班長）、3班（原田（光）班長）、5班（鈴木（夕）班長）、2班（小黒班長）の順となった。

入浴や夕食も割合ゆったりとできたのは、大人数の収容可能な宿舎の強みだろう。例年のことながら、食育担当の小室コーチの尽力により、好き嫌い無く食べられる子どもが増えつつあるのは収穫で、そんな中、Oコーチもみんなのプレッシャーを受けながら、初めての茄子に挑戦し、何とか克服したのは大きな収穫。

初日の真面目なミーティングを終え、大人の時間帯に入ってからしばらく経った時、突然、湖に反響して鳴り響くサイレンの音。そして真っ暗闇の中を数台の消防車が宿舎のすぐ近くに到着したようである。この事態に騒然としたが、しばらくして「誤報」との情報に一同安心した。

だが、その後もサイレン以上の音量を発する某コーチのイビキ、あるいは博多弁などでの漫才のごとき会話の飛び交う睡眠環境に、布団をかぶって防御しつつも翌朝まで影響を被ったコーチ陣は多いはずだ。

=====

朝の散歩は、うっすらと筋状の雪も残る「赤富士」を湖の対岸に眺めながら、昨日の湖畔に向かう。軽く身体を動かし、他のグループのラジカセから流れてくるラジオ体操の放送にちゃっかり便乗したりはいつものこと。

野球やサッカーなど色々な団体が集うこの山中湖では、朝のこの時間から本格的なウォーミングアップやランニングを始めているところもある。ＢＪでは、あくまでも、まだ目覚めきっていない身体や頭を起こし、朝食がきちんと食べられるように準備するのが主目的だが、一方で、深夜・早朝までアルコールに浸っていた大人には、代謝促進の狙いもある。

班別の記念写真や全員での撮影を済ませて、二日目の活動がスタートとなる。午前中の学年別練習に続いて、午後には会場が分かれて八王子の「八王子七小」や川崎の「四谷ＦＣ」との練習試合を行う予定だ。



なお、日曜日とあって、今日は厚木から多くのサポーターも駆けつけてくれることになっている。朝食もそこそこに午前中の練習へと向かい、それぞれの課題をもって汗を流す。昼食の牛丼を平らげて以降、6年生以外は会場移動となり、少々慌ただしい。結果はともかくも、暑い中それぞれ熱心に練習試合を行ったようである。

夜にはミーティングのあとに恒例のビンゴ大会が控えている。場所は舞台付きの多目的ホールに変更されたため、机や椅子の準備に大忙し、何とか時間には間に合った。

感想文書きに続いて各コーチからの話など、いつもながらの展開ではあるが、子どもたちは椅子に座っていることもあり、割合と集中して聞けていたのではないだろうか。そのままお楽しみの時間となり、なかなか良い商品揃いのビンゴ大会がスタート。隣の部屋で音楽活動をしている団体がいるとの情報を、みんな真面目に受け止めてくれたこともあり、例年よりは静かにかつ整然と進行できた感じだが、これも椅子席の効果が十分ありそうだ。

また、残り時間での余興では、内容はともかくも、みんなの前で積極的にアピールしようという気持ちをもつ新しいメンバーの台頭も予感される結果となった。

=====

迎える三日目の朝は、恒例の子どもたちの部屋回りをしたが、やはり班長をはじめ各班のメンバーの個性が現れるものである。二日間の疲れがちょうど蓄積してくる頃であり、起床時刻が近づいていても、準備が整っているのはわずかで、各部屋とも様々な寝相・寝姿が観察できる。

この日の散歩は、昨日と反対側の「みさきキャンプ場」に向かうこととした。この場所は自分も初めてで、広場があるかどうか分からないまま進んだが、途中の湖岸には、早朝から釣り人が多く出て糸を垂れており、安全で距離的にもまあまあの散歩コースと言える。

キャンプ場入口のちょっとした木陰のスペースで小休止する頃に、後続部隊も到着。簡単なバランス運動などをして、宿に戻ることにしたが、どうやら今日も天気は上々で、これまでよりもさらに暑くなりそうな気配。

合宿の仕上げとしての「班別対抗試合」は、2面をフルに使ってのリーグ戦。それぞれ工夫した試合展開をしており、上級生に果敢に立ち向かう低学年の姿な

ども、こうした班別対抗ならではのものだ。

今回は「狩人の心」を課題とする子どもが多かったことから、得点者をすべて記録し、得点王を決めることとした。その結果、6年生の「けんご」が計4点で得点王をゲット。続く2点には、6年「はやて」、5年「あつや」、4年「りょうへい」と3人が並び、1点の選手は、6年「みつき」・「ゆうと」、5年の「ゆうが」・「ゆたか」・「かける」・「りょうすけ」、4年「こうのすけ」という結果だった。

ほぼ予定どおりに進めることができた今回の合宿は、これにて終了。全員そして学年ごとの記念撮影などをして、最後の昼食をとるため宿舎に戻った。



帰路では、「事故渋滞」などの表示が各所で見られ、遅くなることが心配されたものの、事故も無く、ほぼ当初の予定どおりに、元気に戻って来ることができた。

早くからの準備に多大なご尽力をいただいた、役員の皆さんを始め、期間中、子どもたちに色々と気を配っていただいた引率のお母さん方、熱心に活動してくれたコーチ陣、そして応援に駆けつけてくれた皆さん方のおかげで、今年もまた恒例の山中湖夏合宿を無事終えることができました。

宿舎、グラウンドとも非常に良い環境で、何よりも好天に恵まれたことは幸いだったと思います。

以上、今回の活動の記録として、報告します。